



2021年7月5日

日本鉄道労働組合連合会

交運労協・第26回「交通運輸政策研究集会」

ニューノーマル時代における持続可能な 交通運輸・観光産業の確立に向けて



交運労協は6月30日、田町交通ビルにおいて、コロナ禍により2年ぶりとなった第26回「交通運輸政策研究集会」を開催した。JR連合からは、荻山会長が交運労協の政策委員長として参画したほか、政所事務局長をはじめとする7名が出席した。

冒頭、住野議長からは、「交通運輸・観光産業は転換期を迎えており、これまで以上の連携・協働のもと、政策実現に向けて取り組む」との挨拶があった。

その後、国交省の久保田公共交通物流審議官から交通政策や物流政策の今後の展望についての基調講演があり、JR連合より交運労協に派遣している慶島事務局次長からは、コロナ禍における交運労協の取り組みの報告がなされた。



後半のパネルディスカッションでは、交運労協・政策委員長である荻山会長がコーディネーターを務め、交運労協顧問の戸崎桜美林大学教授や私鉄総連・航空連合・サービス連合の代表者、慶島事務局次長とともに、各産業の持続的発展に向けた政策について討論を行った。

JR連合は、本研修会において得られた知見も活かし、引き続きJR産業の持続的発展に向けた政策実現に取り組んでいく。